

【14】断水とトイレ

地震や水害時に何よりも飲料水の確保が重要であることは論を待ちませんが、水洗トイレに慣れ切った現代人にとっては、事故や災害でトイレや下水道が損傷してなくても、上水道の水の供給が止まれば一大事です。

古い話になりますが、昭和 39 年（1964）の東京オリンピックの年とその前年は、東京は大渇水に見舞われ、時間給水のため家庭も社会も混乱しました。

飲料水や炊事用水くらいは、あらかじめ汲み置いて何とかできるのですが、トイレ用水となると、一回にバケツ一杯分は必要なので、断水時に前の人の後にトイレへ入ったらタンクが空になっていて悲劇です。

ガマン出来ないときは、鉄道の駅、図書館、デパートなどでトイレを探してうろつくハメになり、“トイレ難民”という言葉も生まれました。

近年、災害時に避難所のトイレの重要性が認識され、快適な仮設トイレの開発に人々の関心が集まっていますが、製品の多くは非水洗型です。

下水道のマンホールを蓋をとってトイレに利用するタイプもありますが、水の確保・供給が不十分です。

避難所に充てられることの多い小中学校には貯水容量数百 m³のプールが備わっているのでこれを利用しない手はありません。

災害の多い時代になり、避難所の居住性の向上は大事な課題です。水洗トイレなんて贅沢だとの先入観にとらわれず、仮設トイレの水洗化に知恵をしばって下さい。